

2022年7月31日

年間第18主日

菊地功大司教 メッセージ

コヘレトの言葉は、「何というむなしさ。すべてはむなし」と始まります。一体何がむなしなのでしょう。コヘレトの言葉はそのあとで、「全てに時がある」という有名な一節を記します。この時は時計で計ることのできる時間ではなく、被造物に対して神が定めた時のことを指していますが、その神の定めた時に逆らって生きようとする姿勢やその価値観を、コヘレトの言葉がむなしのだと指摘しています。

パウロはコロサイの教会への手紙で、「上にあるものを求めなさい。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい」と述べています。ここにおいても、この世界を支配する人間的な価値観は、脱ぎ捨てるべき古い人の生き方を支配するものであって、造り主の姿に倣う新しい人を支配するものではない事を明示します。

ルカ福音は、自らのために蓄財しようと、新しく大きな蔵を建てようとしている金持ちのたとえ話を記しています。この世の価値観の典型である自分のための蓄財行為に対して、神が「愚か者よ、今夜お前の命は取り上げられる」と言ったというこのたとえ話は、まさしく、この世の価値観に支配され、徹底的に利己的な動機から行動するものに、その「むなしさ」を突きつけています。同時に、この世界を支配しているのは神であって、人間の都合で世界が動くわけではないと言う事実、すなわち、全ては神の時によって定められており、それに逆らうことは全くむなしとこのたとえ話は教えています。

貧しい人のために積極的に出向いていく教会であることを求める教皇フランシスコは、回勅「兄弟の皆さん」に次のように記しています。

「世界はすべての人のために存在しています。人は皆、同じ尊厳を持って、この地球に生まれるからです」(118)

その上で教皇様は、「共同体としてわたしたちには、すべての人が尊厳を持って生き、十

全な発達のための適切な機会が得られることを保障する責務があるのです」と記します
(118)

さらに教皇様は聖ヨハネ・クリゾストモの言葉を引用して、こう記します。

「自分の財産を貧しい人々に分かち与えないとすれば、それは貧しい人々のものを盗むことになり、彼らの生命を奪うことになります。わたしたちが持っている物はわたしたちのものではなく、貧しい人々の物です」(119)

第二バチカン公会議の現代世界憲章には、「人間の価値は、その人が何を持っているかではなく、どのような者であるかによる(35)」という一節があります。わたしたちは、どのような者であろうとしているのでしょうか。自分自身を世界の中心に据え、自分の計画で人生が動いていると思いつく生き方なのか、それともすべての人の尊厳が守られ、賜物である命が十全な発達の機会を与えられるよう努める生き方なのか。

教皇様の「福音の喜び」に記された呼びかけに、あらためて耳を傾けたいと思います。

「出向いていきましょう。すべての人にイエスのいのちを差し出すために出向いていきましょう。・・・わたしは出て行ったことで事故に遭い、傷を負い、汚れた教会の方が好きです。閉じこもり、自分の安全地帯にしがみつくと気楽さゆえに病んだ教会よりも好きです。(49)」

神の定められた時に敏感に心に向け、それを悟り、それに従う人生を歩みましょう。